訃報

石元勲君を悼む

1965 年卒　玉井利宏

２０２０年２月２２日病没
遺族　　保子夫人

１９６１年春、私は航空部に入部のため、新町校舎にある航空部ＢＯＸを訪ねました。そこには多くの新入生の中に混じって石元君が静かに座っていました。彼との初めての出会いです。それ以来６０年に及ぶ交流でありましたが、多くの楽しい思い出を残して彼は去ってしまいました。

彼のひととなりは素直でおとなしく、よく人の話をききますので、先輩からも後輩からも幅広く愛されていました。

彼のグライダーの技量は優秀で、選抜されて学連の中央研究所への入所を果たしています。卒業後も岡山県邑久滑空場で関西エアロスポーツクラブに所属し、その技量をさらに伸ばしています。また、国内の制限されたフライトに飽き足らず、オーストラリアにも度々出かけてソアリングを楽しんでいました。ナロマインでの飛行中において雷雲通過により、他のグライダーが場外着陸におちいっても､彼は冷静沈着な判断で雷雲を回避し、無事に滑走路に着陸しています。

１９９８年１２月には DISCUS 機で三角点３００ｋｍ飛行と目的地飛行を達成し、金賞とダイアモンド賞を獲得しています。

後年の邑久滑空場における合宿では、自分では直接のフライトはあまりやらなくなりましたが、後輩の指導によく当たっていました。

私たち１９６１年入学の同期生は大変結束が強く、卒業以来５年毎に、近年は３年毎に欠かさず同期会を開催してきましたが、勿論彼は毎回出席でありました。ところが、一年ほど前より体調を壊し、療養に努めていましたがついに帰らぬ人になってしまいました。卒業時の同期生は１２名でありましたが、彼が欠けたことにより８名となってしまいましたことは、まことに寂しい限りであります。

石元君のご冥福をお祈りいたします。

ＰＳ
金賞獲得については１９９９年発行の翔友１４号に彼が寄稿しています。ご一読ください。

訃報

追悼　篠原雅司君

まぼろしとなった全員揃っての同期会

1985 卒　中村悟志

昨年 7 月、翔友会幹事の瀬川君からのメールに「篠原は亡くなったので、今後『翔友』の送付を止めて下さいと奥様から連絡がありました」と書かれていたのを見たとき「いくら何でもまだ早すぎるやろ。」と思わず絶句してしまいました。

思い出すと、彼はあまり優秀な航空部員ではありませんでした。彼は航空部員では珍しく軽音サークルにも入っていたため、航空部の活動に対して少し引いたような感じでした。当初は二束のわらじを履いての活動に他の部員からちょっとした反発もあり、彼自身もそんな周りの雰囲気を感じていたと思います。

しかし音楽だけでなく、飛ぶことも何よりも好きだったのか、合宿における彼の真摯な活動姿勢もあり、徐々に部内での反発も無くなっていきました。さらに、彼はいつもギターを持っていて、少しニヒルなミュージシャンとういう風采から女子部員から人気もあり、いつしかアイツは音楽活動でも忙しいから合宿以外の活動では少しぐらいサボってもいいか、と見做されるようになっていきました。その後卒業まで 4 年間、彼とは同期として一緒に活動しました。

私たち同期はあと数年で 60 歳を迎え、定年が見えてきた世代となりました。この先仕事から解放されて時間に余裕ができれば、私は同期会を企画したいと考えていました。

できれば滑空場でまた一緒に飛べるような同期会が理想ですが、せめて宿舎での雑魚寝を思い出しながら泊りで温泉もいいなと思っていました。

今となっては同期全員が揃うことは叶わなくなりましたが、温泉での同期会が実現すれば、篠原の思い出話をしながら昔の仲間と酒を飲みたいと思います。

後列右から 2 番目が篠原
【彼と一緒に写った写真は見つかりませんでした。これは一番左端の北林夫人（旧姓宮崎さんから入手した写真です】